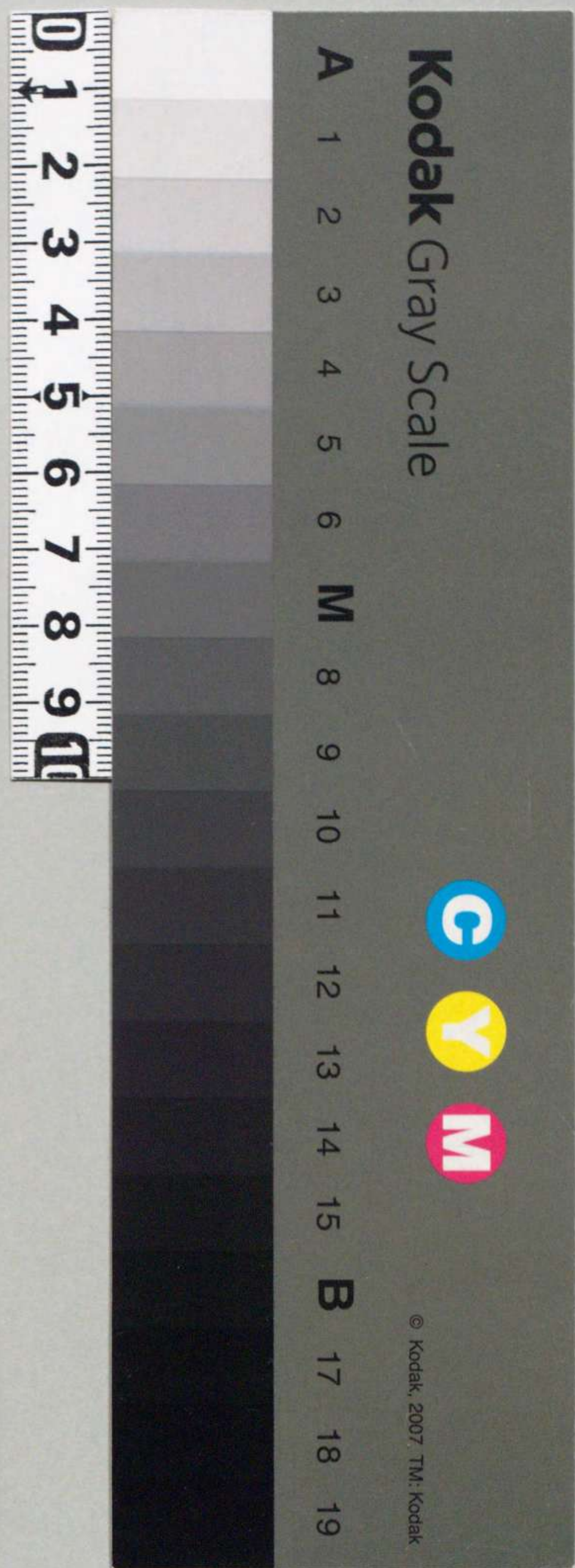


寛永諸家譜

清和源氏甲九冊之内
義家流之内新田流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186	(8)
函號	特	76	1





松平 附小栗中目小次

寛永諸家系圖傳

清和源氏 甲五

義家流

松平

信忠流

● 信忠

● 清康 ○

淺草文庫

信孝 ふたけ

藏人 くらひん

天文十七年四月十日乙卯之別荘生たふに
おわく失やりあつて死しす
法名 普岳通ふたけき

重忠 しげただ

九郎七衛門

三列さんれつの生なまれ

東照大権現とうしょうだいこんげんに託たく入いれりてておんおん系けい

天正十八年

大権現だいこんげん冥みやう東とう御ご入いれ國くにの時とき

信母しんぼによりて大だい

法書ほふしょ乃なる頭かぶとなり

孝たか長なが去き年ねん十二月じふにがつ二日ふたひ死し去き十二じふに歳さい

法名ほふな通と徹てつ

忠清 ただしみず

与十郎

生國なまくに同どう前まへ

台徳院たいとくゐん殿のん法ほふ切きり少せうの時ときをを別べつ漢かん松しょうにに託たく

久しきよし

寛永六年大沙着の歿と云ふ

同六年十二月二十二日死と二十二日

法名長壽

忠利

九郎右衛門 生國同前

十六歳より

大権現におよそ二十歳より

白徳院殿より

寛永六年三回陣の始

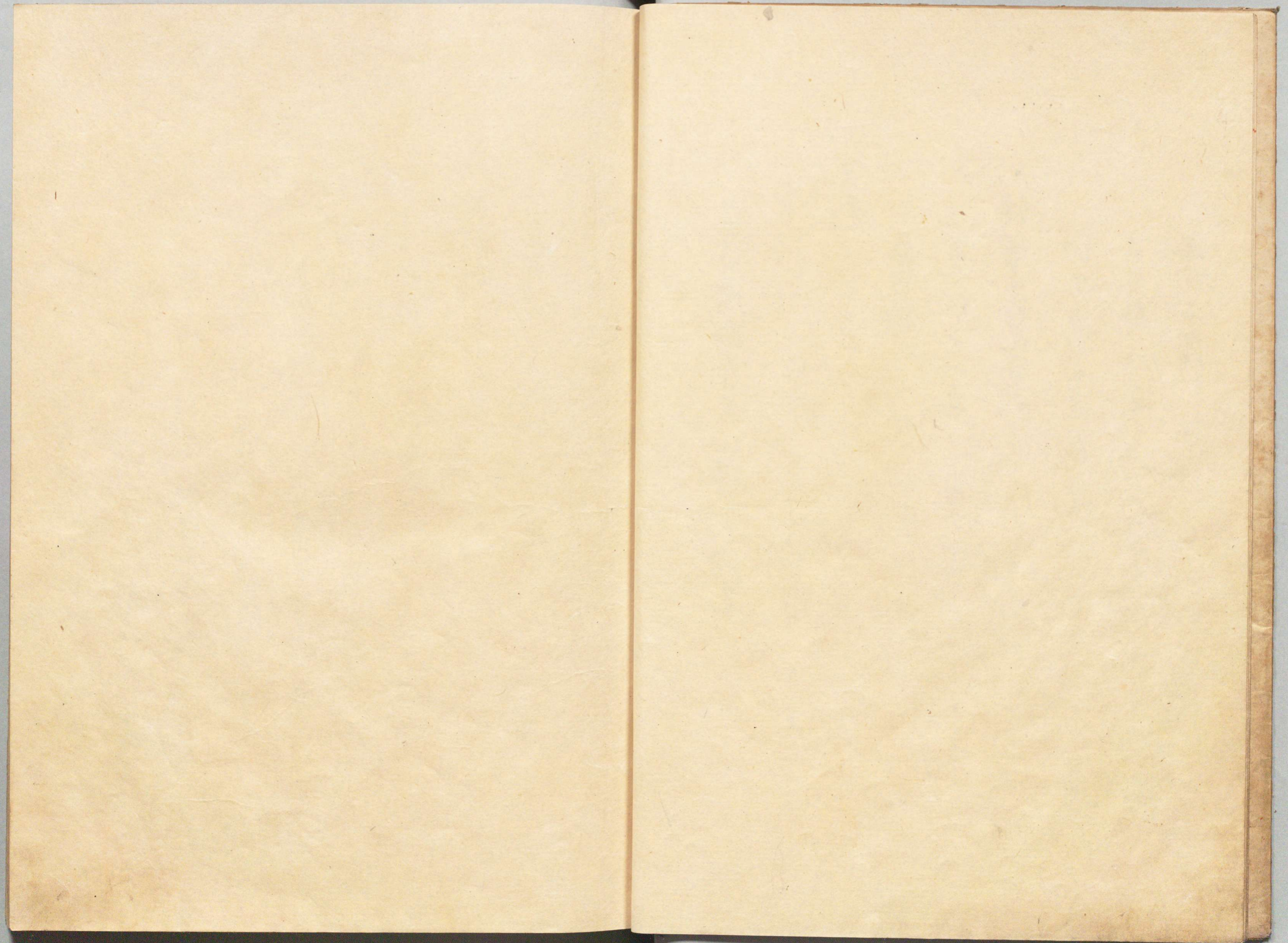
重利

与十郎

寛永十一年二月十一日

將軍家におよそ二十歳より

忠利家紋 漢字



松平文流

母澤家

今業いまゐと云ふは、忠次ちゆうじの忠承ちゆうじやうと云ふは、

信光のぶみつと云ふは、忠次ちゆうじの忠承ちゆうじやうの子源七郎みなもとのしちらう

忠次ちゆうじの忠承ちゆうじやうと云ふは、又業またゐと云ふは、信光のぶみつ

の忠承ちゆうじやうと云ふは、久親ひさちかと云ふは、ありし

源七郎みなもとのしちらうと云ふは、信光のぶみつと云ふは、

忠次ちゆうじの忠承ちゆうじやうと云ふは、久親ひさちかと云ふは、ありし

源七郎みなもとのしちらうと云ふは、信光のぶみつと云ふは、

親書 りし

清田部 きよのたべ

生田回前 なまのくわいぜん

法名淨威 ほふなまじやうゑい

親宅 りし

清翁 きよのおきな

生田回前 なまのくわいぜん

法名念誓 ほふなまねんせう

東照大権現よりついでに列せ候 とうしょうだいこんげんよりついでにりやくせう

よあわきしつ代官とむけしるる候 よあわきしつしろくわんとむけしるる候

親正 りし

清田部 きよのたべ

生田回前 なまのくわいぜん

右徳院殿 みぎのつとむらひのどの

將軍家よりついでに遠列 しやうぐんのかみよりついでにとほりやく

あきしつ代官とむけしるる候 あきしつしろくわんとむけしるる候

正信 まさのぶ

戸一郎 と

生國同家 なまくにら

寛永十年 かんえいじゅうねん

將軍家と評 しやうぐんけとひやう

同十二年 狗命 いぬのいのち 命 いのち 母 はは 大御書 おほみぎ 御書 みぎ

某 なにか

源七郎 げんしちらう

上野介 うののすけ

江名源 えなげん

某

源七郎

上野介

二列 ふたはら 忠次 ただつぐ 信 のぶ

江名源 えなげん

某

源七郎

上野介

江名源 えなげん

某

源七郎

ありて家とつて成持とす

しりて

大権現の御賢息松千代丸

信子丸

忠次の家とつて松千代丸の母

忠輝と又母次の家督とす

近清

近清門尉

信名清

清直

近清門尉 ありて田丁子の致とす

松平源七郎につて源七郎死すのとき

松平松千代丸とつて信次忠輝と

よつて

元和二年忠輝と信改易のちなり

出づ

台徳院殿了了之

清須 きよすけ

北十郎 きたじゅうらう

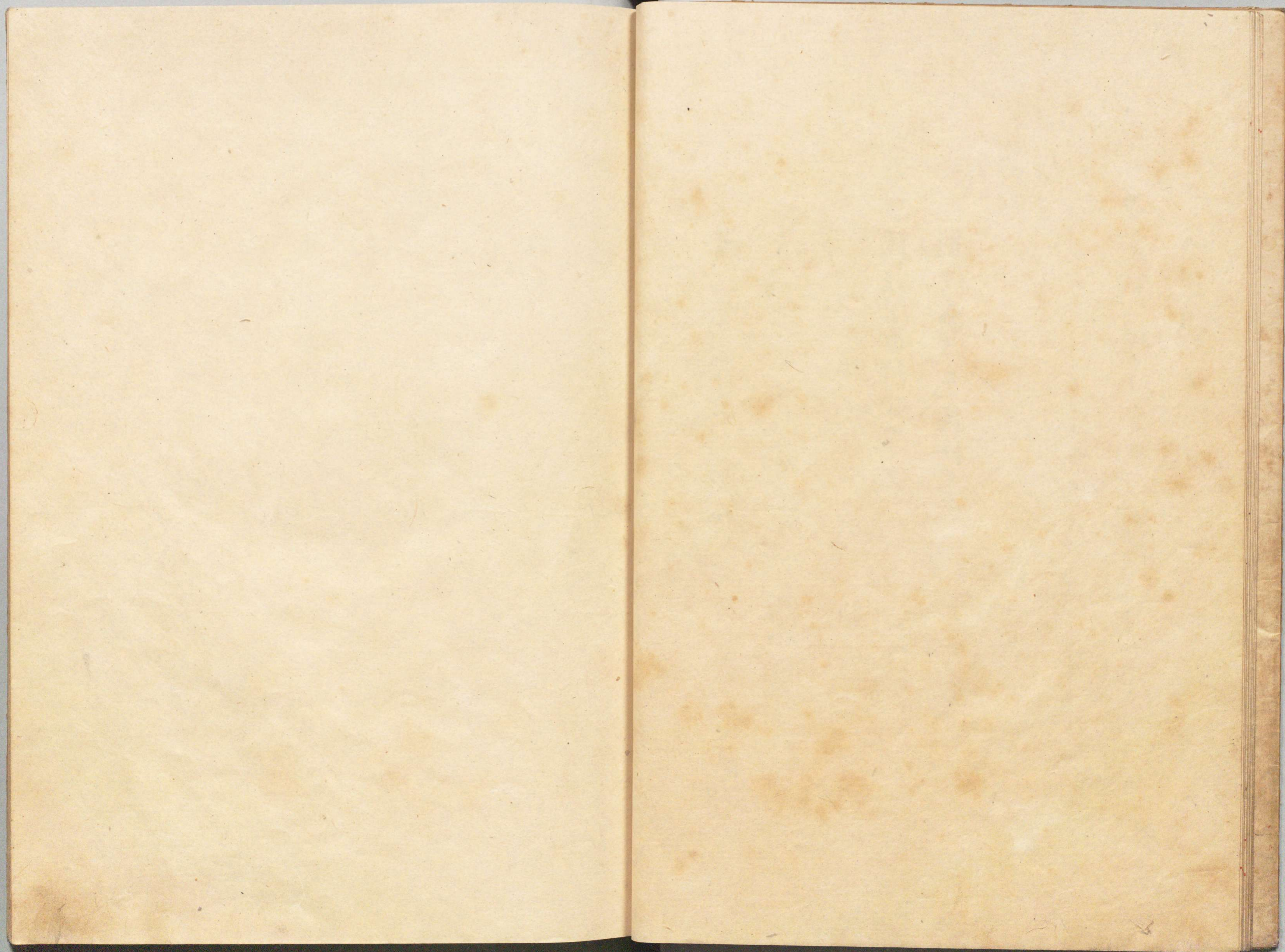
勝直 かつなお

新平 しんぺい

元和九年十六歳 げんわ 9ねん 16さい
寛永十六年 かんえい 16ねん 納命 のうめい

か

清須家紋 きよすけけ
正徳家紋 ただのりけ



● 信重

松平

孫七郎 信光の子息松平孫七郎

冬別長沢に信重は此後流る

天文の乱に信重 廣忠卿に扈して

軍忠あるゆへ其功を賞じて知りた

まの御書にあり

と度々申すからかたはしお末題

信次ふた

八三藩

生國冬河なまごくにふか

中曾の武治少正の東路の卿の内
を福も領を金にのみおまけに不有相
遠平の如く如行
天文十又

二月十日

廣忠沙判

中次孫之即又

信宗ふね

甚長おん

生國同前

信直ふた

甚長

生國同前

信勝ふた

信之節ふた

生國越後ふた

家紋藤丸
しん
の
しん

松平

某 カ

總之即 ト

牛五卷河 ニ

東照大権現ノ行ノ女ノ家

長次 カ

右京 ウ

生國同前 ニ

大権現ノ行ノ女ノ家

寛永又二月十六日死
法名淨庵

長吉

七歳

生國河

大徳院

名徳院

將軍家より入る

長正

十九歳

生國河

實田中丞次郎

義忠の子

川外親父忠京長吉や

元和二年十一月十九日

將軍家より入る

貞長

次郎右衛門

生國河

將軍家より入る

家紋一覽

家紋一覽
いのみんはらたのこ

某 なにか

松平

君之郎 きみのみらう
生國冬河 なまくにふゆがわ
廣忠卿 ひろちゅうのきやう よしのぶ
法名淨光 ほうなみじやうくわう

某

君之郎 きみのみらう
生國冬河 なまくにふゆがわ
法名淨光 ほうなみじやうくわう

東照大権現より所へもつたもの
台徳院殿より所へ

重忠 しげたけ

右之部 みぎのべ

牛國田前 うしくにのまへ

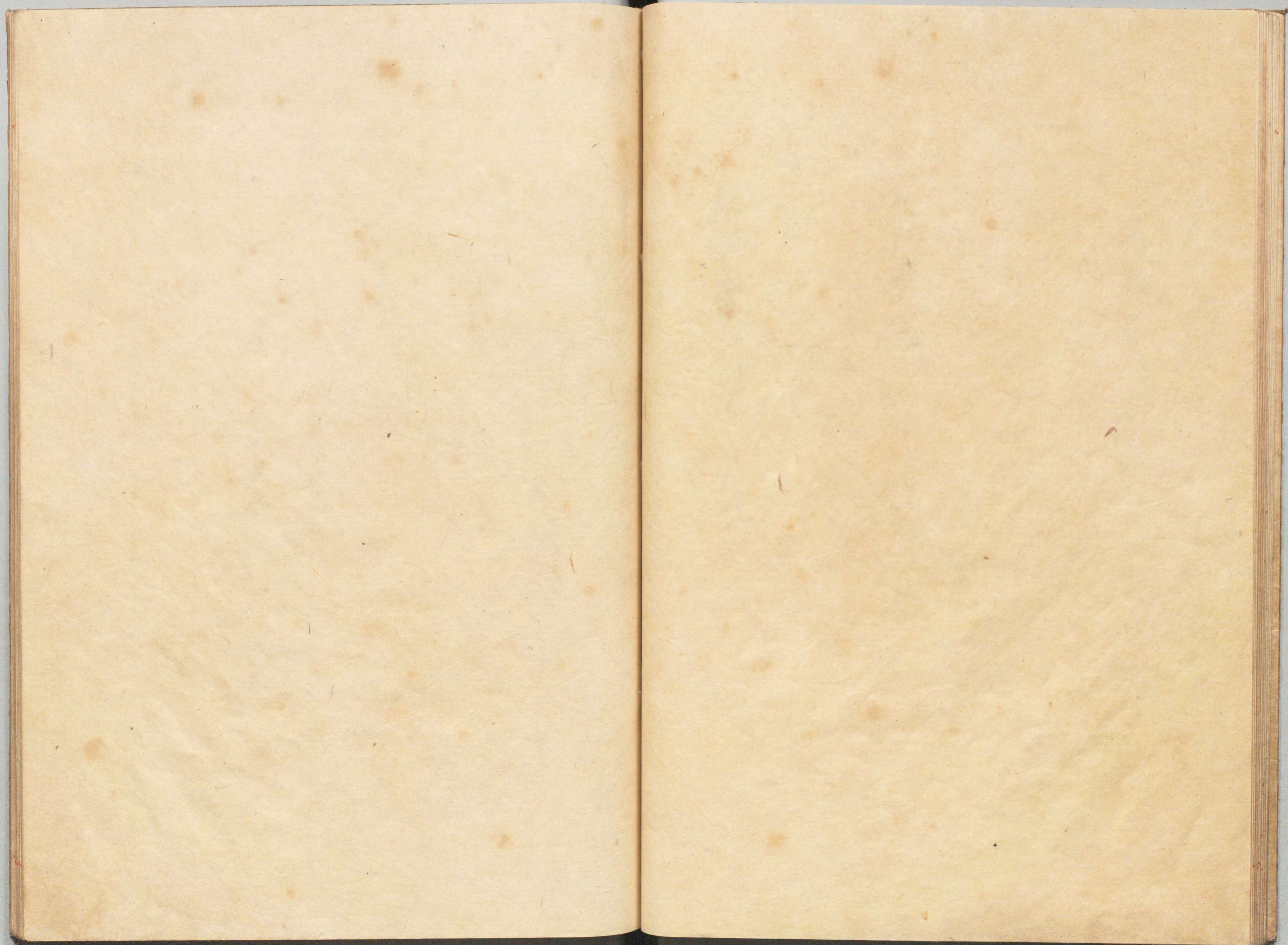
右徳院殿より所へもつたもの

重俊 しげと

右之部

生玉相模 なまたまさまと

將軍家より所へもつたもの



● 清吉 きよきち

越後守 えちごのり

主事冬列人なり しゅじゆふりゃくにんなり

松平

清忠 きよただ

元進 もとすけ

清政

与右衛門

東照大権現（一）に人（二）とて（三）なり

享保八年十月死（一）と九十七（二）歳

通名清玉と号（一）なり

政重

右衛門

生國遠別

大権現（一）に人（二）とて（三）なり

大坂陣（一）の河河部（二）守（三）くみ（四）り（五）屬（六）

一（一）等（二）級（三）と（四）得（五）たり

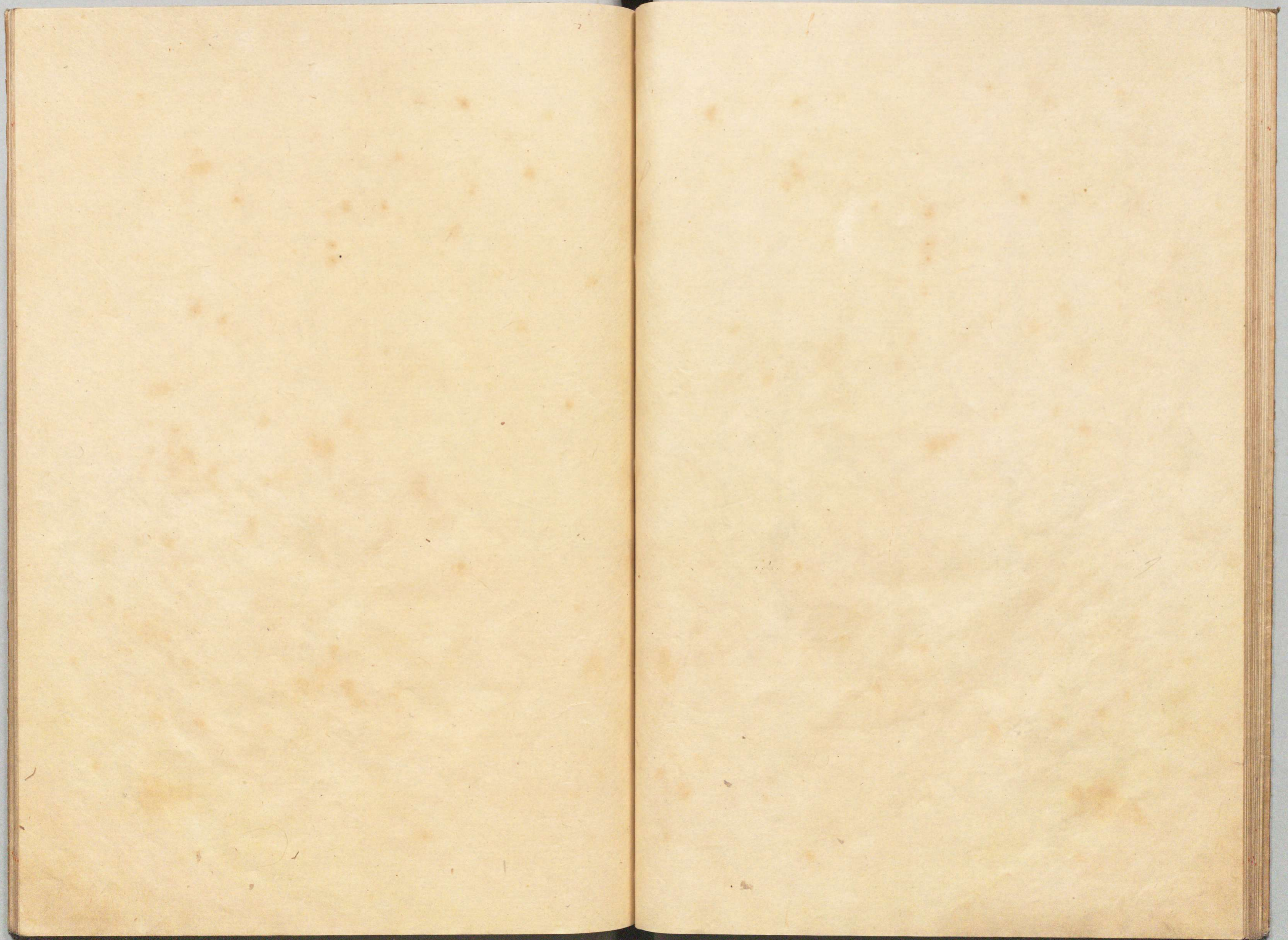
重勝

市郎左衛門

生國冬河

台徳院（一）及（二）よ（三）つ（四）人（五）とて（六）なり（七）て（八）大坂（九）番（一〇）なり（一一）

家紋（一）丸（二）内（三）一（四）星（五）



改長 かえりなが

丸巻

將軍家よりけりてまつりし御書は

と

改膳 かえりぜん

新九郎 しんくわう

生玉巻 なまたままき

將軍家よりけりてまつりて九百名の地

家紋九回一文字 いこのもんすまのうしちもん

某 カ

松平市郎

生國冬列 まに

小栗 こがり

某

又市 またいち

仁右衛門

生玉同前 まに

松平氏 まつら ともあつたため母の氏よりて小栗

と号して

天正二年九月十一日死去六十四歳
法名宗善

忠政

又市

生國同前

東照大権現よりけりて侍者なり
之は大御書乃駒となり又御鉄炮より
わたりし家

元龜元年姉川合戦の時十六歳より
軍功あり

同二年味原合戦の時

大権現の御馬のきり紙なるは徳也
天正二年も藤合戦の時も鑑本と
りて其首を得たり

大権現田中乃城とせられたるは酒井五郎
旧者も大御書の徳也小次郎并忠政等
おもひておこりに地の地れからめりし敵

大坂陣のとき鉤命をうけて先子(父)を
ついでに死なせられた

元和二年九月十八日六十二歳と病死
法名源室宗中

吾次

基丞

生國を別

享和十一年二月二日二歳と病死
法名宗中

吾忠

八十郎

生國を別

政信

又市

十一年のとき

名徳院殿と評し

享和元年真田陣の時

名徳院後の信奉

大坂陣に信奉し落城の時三九

すみいつく軍功を劾し何れを回長

中止勅命由し四十丁変更一取あり

信由

仁左衛門

生田後河

大権現へ沙小姓ゆくけり

贈書と仰付

其の昔十九年大坂陣に信奉し其

記

大権現作之る将監と信由あり

伊達政宗陣中の旗と其く

釣命と影と坂陣取

と意のし

元和元年大坂陣の時信由

口東のよむ

し

大言新助

信政の忠告人として信政の場より
 してららむし時小幡遠くも家人新女
 らひ政信伝由こ人よじりて守るの證
 據よしてらむとあはれし時必は文
 文字の指也信由の地あるは五
 甲ん乃さしとあはれし時新助記
 ありて頼宣の後に信政の場より
 号し

信政

松吉

信友

又吉

忠次

半吉

忠勝

自頼

信勝 ふら

唐次郎 たか

生國成茂

信房 ふら

勘八郎 かん

生國成茂

寛永六年 かん

將軍家 しん

生國成茂

同十四年 どう 伊豆の伊豆 いず

家紋立波 い

義長

本目

冬列 松平集人 部下の陣敷 大絵の
末子

松平集人

生國冬列

天正十八年八月十八日卒七歳

法名常盛

義正

松平権十郎

生國目前

大権現をおくも、昔年の時松平内防

より、屢々其後、常々人となりて伊豆國

に、年毎に時、石川日何と、小田原

河陣より、石川日何と、小田原の道

志となりて、中め、心名あり

大権現の仰み、本月、梅号と

寛永八年十一月十八日七十二歳歿

法名常真

正重

権十郎

生國目前

大権現

名徳院殿と、評し、

寛永六年二月十四日、年九歳、

法名源批

正次

権十郎

生國次郎

寛永七年正月十八日

將軍家におゝし書り家督としぐ

同十二年より御書におし

正義

権左衛門

生國回前

祖父義正の書りとなし

寛永七年

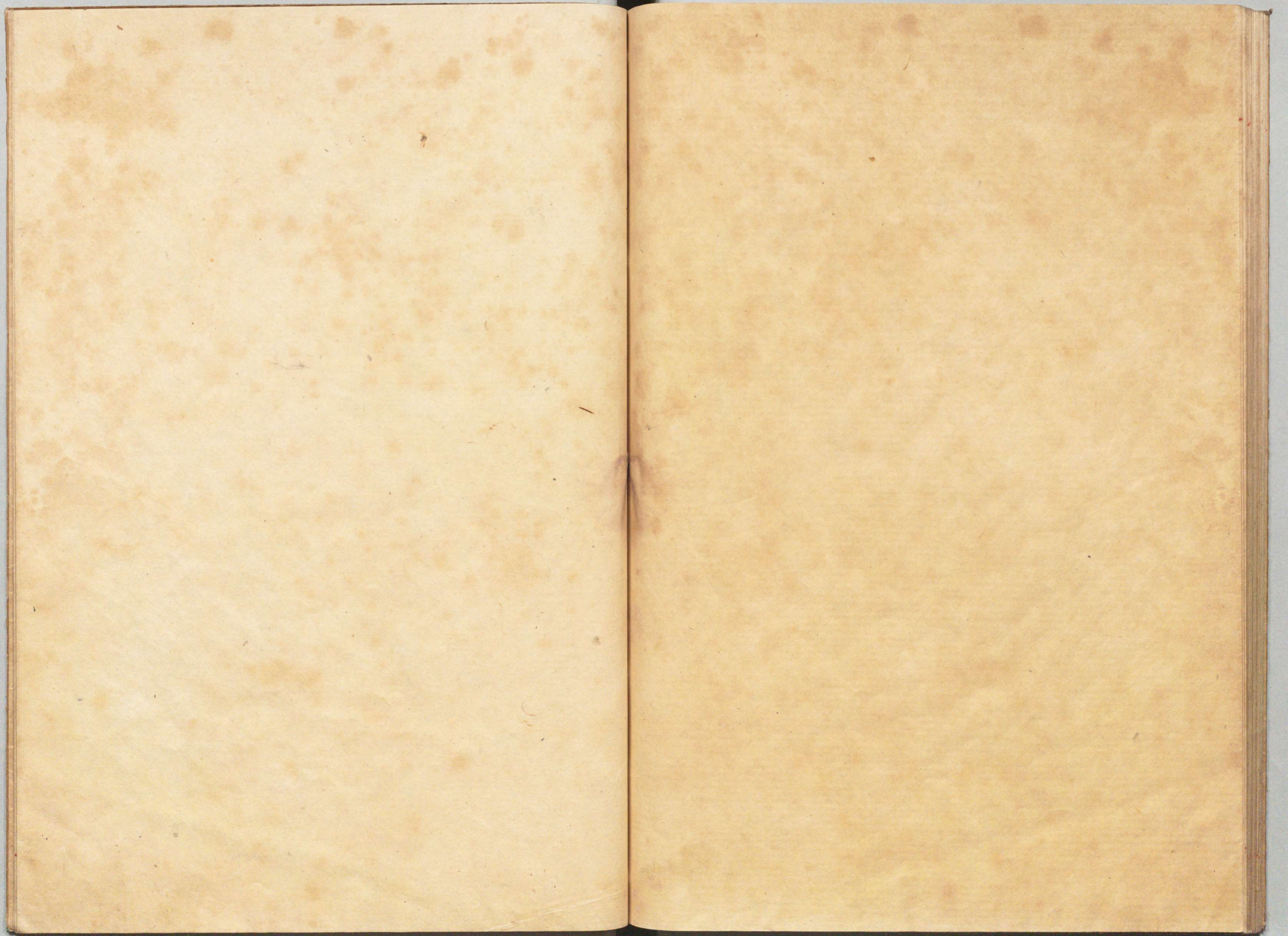
將軍家におゝし

同十一年正月十二日 台命より

家督としぐ

同十二年より御書におし

家の紋桐環



● 重吉

小沢
初ハ松平後ハ小沢とありたむ代ハ書家
の伊左衛門ハ伊左

松平次郎在藩門 生國冬列野見

重吉ハ松平光親の孫ナリ重吉ハ其孫也

此ハ其孫ナリ松平の譜中ニ入ルナリ

天正八年八月二十七日冬列時身ハおぬ死

法名清久

某

十年

忠重

小沢源兵衛

生田四郎

永井右近守あまのたよ兄長田久右衛門あまた妹いもししととなりて家督いけさくとしきしと長田ながたと稱なづと後のちよ

大権現の位おほごんげんの位ゐりて小沢こざわとありたむ

天正十二年てんしゅうじふにねん長久ながひさ右衛門ゑもんの位ゐ奉たてまつりて

寛永六年かんえいごくろくにねん冥系めいけい源陣げんじん

同十九年どうじゅうくにねん大坂源陣おさかげんじん

台徳院殿たいとくゐんの位ゐなり

寛永八年かんえいはちねん二月二十日にがつにじゅうにち卒す七歳しちさい也なり死し

法名ほふな專英せんえい

